

# 「日本語の優れた使い手」をめざして

—「現代語」学習指導の一取組み—

山下明子

はじめに

平成九年度、三年生の総合選択の一科目に「現代語」が取り入れられ、私は初めて「現代語」という科目を扱うことになった。

四月十二日(金)一時間目、三十六名(男子二名女子三十四名)が教室にやってきた。「現代語」って何をするんだろうとげんな顔付きである。初めに私は「皆さんは英語を上手に使えますか。」と尋ねた。だれも手を挙げない。今度は「日本語を上手に使えますか。」ときいてみる。隣同士顔を見合わせるが、今度も手を挙げる者はない。そこでおよそ次のように話した。「私たちがなにげなく使っていることば、「日本語」、その特質を見つめて、書きことばにおいても、話しことばにおいても、日本語を上手に使いこなすことができるようになるための勉強である。目標は「日本語の優れた使い手」となること、特に音声による表現を重視しよう。私にとっても初めての授業、共に「日本語の優れた使い手」をめざしてこの学習を進めていこう。」と。

「日本語の優れた使い手」と大きな看板を掲げながら、たどたどと歩いた一年間だった。今後どのように考え、実践していけば

よいかをお教えいただきたいと思つて報告する次第である。

## 一 総合選択「現代語」について

本校では、三年生文系に総合選択四単位が設けられている。進路に応じて、二単位二科目選択する。A・Bに分けてあり、国立大学受験者はAから数学、Bから理科を選択する。私大・短大他の受験者は、Aから国語・芸術・家庭情報処理の中の一科目、Bから英語を選択する。

この総合選択Aに国語を取り入れて、まだ二年である。教育課程委員会の提案を受けて、国語科でも総合選択に国語を取り入れることを了承した。実施科目についての話し合いの結果、負担は増えるが、選択の幅を広げるという意味で二講座開こうということになった。

国語を選択してくる生徒は、私立文系型、私立短大型で四〇〇六〇名と予想された。受験科目に古典がある生徒(二十名程度)には「古典講読」、受験科目が、現代文だけ、あるいは、推薦作文だけという生徒には、「現代語」を選択させることにした。後

者に対しては「現代文」を増単位して問題演習をしていくのも一方法であるが、表現力育成に重点を置く方がよいと考えられた。生徒たちの日常からいうと、表現力、とりわけ音声言語の表現力を高める必要がある。指導要領にうたう「国語表現」と「現代語」の内容を比較してみると、「現代語」の方が国語の力における、より基礎的な部分を扱っており、音声表現を重視している。聞くこと・話すこと、漢字力・語彙力、文法、文章構成法の基本を指導し、実習を通して、受験対策としての作文・小論文・面接にも発展させていくことができそうだとということで「現代語」の開講となった。

## 二 「現代語」の年間計画

生徒たちがこれから飛び出していく世界では、情報を的確に受信・発信する言語能力がますます要求される。ところが、授業中の生徒たちには、考えることも、表現することも人任せといった風潮が、以前より強く感じられる。発達段階による恥じらいもあるが、話すことや話し合いを苦手としている。また聞き方も漫然としていて、聞いて考える、的確に応答するということにつながつていけない。生徒自らが問題点に気づき、互いに考え合い、聞き合い、話し合つて解決していくためには、音声言語の力をしっかりと身につけさせることが必要であろう。どの科目でも、その伸長を図らねばならないが、「現代語」はそのためのひとつも適切な教科である。日常生活に必要な言語能力の育成を目指して、

教科書での学習と学校行事等を組み合わせ、次ページの表のような計画で進めた。

### 三 授業の実際

#### 1 聞き取り(二時間)

① 「現代語」についての話を聞く。

② 創立記念講演会を聞く。

① 初めは、教科書の説明を読んでまとめる作業と教師の話聞いてまとめる作業との両方を行つて比較させる予定だったが、十七名は教科書がまだ届かないということで、聞き取りだけにした。話は、次の文章をもとに、これまでの国語学習や日常生活での言葉の問題、国際化時代のことなどつけ加えて一〇分ほどのものにする。この文章は、期末テストの聞き取りにも使用するつもりで作成した。

私たちは、日常さほど不自由なしに日本語を用いています。そのため、言葉について考える機会をあまり持たずに過ごしていますが、日常生活において半ば無意識に用いている言葉も、改めて考えてみると、いろいろな気付かずにいることが多いものです。「現代語」はそうした現代の日本語に関する種々の事項を取り上げて、言語の機能、あるいは日本語の特質などについてより深く考えていきます。こうして、日本語への認識を深め、言葉を的確に理解し、適切に表現する力を養う

平成九年度 「現代語」 年間計画

		単元と目標	学習活動	指導上の留意点
4月		<p>「現代語」とは 現代語学習への意欲を喚起する。 聞くことへの関心を高める。 目的や場に応じた話し方や言葉遣いへの関心を高める。</p>	<p>現代語学習についての話を聞いて要点をまとめる。 創立講演会を聞いて、話の流れや要点をとらえる。 自己紹介をする。 友人の自己紹介にメッセージを送る。</p>	<p>メモをとることの大切さに気付かせる。 「聞」と「聴」ということについて考えさせる。 印象に残る自己紹介を工夫させる。</p>
5月		<p>日本語の特徴……音韻と表記…… 日本語の音韻と表記について理解し、自己の表現に生かすことができるようにする。</p>	<p>日本語の拍、アクセント、五十音図、日本語の表記・符号と句読点について学習する。 座談会……日本語の音韻と表記について……</p>	<p>グループ学習 「私の提案」を用意させておく。</p>
6月		<p>意見文を書く 自己の意見を持ち、説得力のある文章表現ができるようにする。</p>	<p>意見文を読んで、意見・主張と説明・根拠の述べ方を分析する。 主題文を作る。 構成を考えて書く。 表記や句読点、文法に注意して推敲する。</p>	<p>弁論大会の原稿として書かせる。</p>
6月		<p>弁論大会を聞く 友人の主張を聞いて、的確に聞き取り、自分の考えを深める態度を</p>	<p>出場者の練習弁論を聞く。 メッセージやアドバイスを送る。 弁論大会を評価表を持って聞く。</p>	<p>選択者の中で、学年代表に選ばれた者に発表させる。 (評価表は全学級に配布する。)</p>

6 月 7 月	<p>養う。</p> <p>日本語の特徴……語彙と文法…… 日本語の語彙と文法について学習し、辞書を活用して文章を書いたり、文法的観点から推敲したりする態度を養う。</p>	<p>生活と語彙、和語と漢語、外来語、方言、同音異議語、付属語の役割、文末決定性、修飾語の順序について学習する。 夏休み課題作文・小論文・読書感想文の準備シートを作る。</p>	<p>効果的話し方にも注意させる。</p> <p>辞書の活用を強調する。</p> <p>主語・述語の呼応には特に注意させる。</p>
9 月 10 月 11 月	<p>言葉と生活</p> <p>日常生活の中で、言葉の問題がいかに深くかかわっているかを自覚する。 論理的表現による議論に慣れる。</p>	<p>分類と記号・言語の機能・事実と意見・議論と論証・敬語のはたらきについて学習する。 作文・小論文を書き、批評会。 デイベートを実習する。 テーマを決め、情報を収集する。 班ごとに肯定側・否定側を決め、内容を整理する。 各班の発表を聞き、判定する。</p>	<p>各自の受験校に対応した字数で書かせ、相互批評させる。 デイベートのテーマ例・実例をプリントで示して、概要を知らせる。 資料収集については図書司書に相談させる。 紙上デイベートで検討させる。 ビデオに記録する。</p>
12 月 1 月	<p>(二学期末テスト)</p> <p>卒業論文を書こう</p> <p>言葉に関して常に考察しつつ生きる姿勢を培う。 参考文献の利用の仕方を知る。 レポートや論文の書き方を学ぶ。 書くことや文集を作る楽しさを味わう。</p>	<p>テーマを決める。 参考文献を読む。 主題文を提出する。 原稿の添削を受ける。 パソコンで清書する。 文集を作る。</p>	<p>言葉に関するテーマとするが、どうしても書きたいものがあればそれも可とする。 参考文献については図書司書に、パソコンは家庭情報の先生・選拓生に指導を仰ぐ。 1月の自習時間を利用する。</p>







## 6 日本語の特徴：…語彙と文法：…（七時間）

- ① 教科書と教科書準拠の演習ノート
- ② 夏休み課題作文の準備 — 題材、主題文、構成を書く準備シートの作成

## 7 言葉と生活（十四時間）

- ① 教科書と教科書準拠の演習ノート
  - ② 作文または小論文を書き、批評会をする。
  - ③ テーマを選んでディベートをする。
- ① 言語の機能、事実と意見、議論と論証についての学習。
- ② ①の「事実と意見」のところで、各自の入試小論文・作文の対策として、過去問を用いて書き、グループで相互評価をする。人に見てもらうための文章であることを意識して書き、試験官になつたつもりで読む。相互評価はまだ難しく、感想程度である。相互評価は人間関係の問題もあり、今後の研究課題である。（受験対策としての小論文指導は、各テーマごとに放課後の課外で行っている。）
- ③ ①の「議論と論証」のところにディベートが取り上げられているので、実習した。全員経験がなかったので、ディベートの実例を勉強することからはじめる。六班に分け、グループごとにテーマを決め、図書館で資料を探し、まとめていく。資料収集は、司書の先生が市立図書館、県立図書館から相互貸借の制度を利用して集めてくださった。

ディベートのテーマ

一班 学校で「性」について教えるとき、避妊教育は必要である。  
二班 漫画は悪い。

三班 門立ちは必要だ。（登校時の校門指導）

四班 死刑制度は廃止すべきだ。

五班 マリリン・モンローは自殺だ。

六班 脳死は人の死だ。

自分たちで決めたテーマのためか、資料を調べたりするのは非常に熱心で、グループ内の話し合いも活発であった。発表に入る前に、私の出張もあつて自習時間があつたので、紙上ディベートをさせておいた。

発表は一時間に二班行い、判定は、立論・反対尋問・最終弁論・資料・総合印象の項目ごとに五段階評定し、その総合得点で行つた。一応形にはなつたが、論点の明確さや、的確な応答の仕方など課題が多く残つた。

## 8 二期期末テスト（一時間）

- ① 同音異義語・漢字の使い分け
- ② 表現の裏表
- ③ あいさつの言葉の機能
- ④ ディベート

## 9 卒業論文を書こう（三時間 $\pm$ ）

十一月の終わりから、十二月の初めにかけて推薦入試の合格発表があり、このクラスの三十名は合格した。残りの六名は一般入試予定の生徒である。この六名には現代文の問題演習をすること



にし、他の生徒には、「現代語」の学習のまとめとして、ことばをテーマに文章を書かせるのが、この学習の仕上げである。これまで原稿用紙五枚書くのが最高だったので、六枚以上という条件を出した。初めは「ええっ」との声も上がったが、すぐにテーマについての質問が相次ぎ、資料探しを始めた。司書の先生にも積極的に相談し、本を集めてもらったりしている。論文と言えどもにはならないだろうが、「卒業論文を書く」ということは魅力的なことであつたようだ。普段ならほとんど手にしないような本をせっせと読んでゐる。センター試験が終わると一月いっぱい、進路決定者は午前中別室で自習である。私は、自分の空時間に、この三十名を図書室で書かせることにし、了承してもらつた。

最後の一週間は家庭科の先生と家庭情報処理を選択している生徒に指導してもらつて、パソコンで打ち上げた。数名が、手書きや自宅で打つことを希望したのでそれも認めた。二月は自宅学習なので連絡がうまく取れず、文集が出来上がったのは卒業式の前日であつた。「私たちの卒業論文」という表紙を付け、全職員にも配つた。生徒たちには、大きな充実感があつたようで、「言葉にすることで、自分の考えを見つめ直す貴重な体験だつた。」「文章を書くことの楽しさを覚えた。」「これからの人生に大いに

役立つと思う。」などの感想を寄せた。職員室でも、進路決定者への自由研究課題のことが話題になつた。

### おわりに

平成八年度、鹿児島県高校国語部会指導法研究会で、三年間を見通した音声言語学習計画の作成を担当した。作つてはみたものの学年や学校全体で取り組むことはなかなかできない。「現代語」だつたら、いくらかそれに沿つたものができるのではないかと、

### 資料⑥

次	資料⑥
4組	大村麻里 3
4組	野口香壽恵 7
4組	鎮守広美 10
4組	竹内ひとみ 13
4組	木村摩実 16
4組	上吹越直美 19
4組	阿野ゆかり 22
4組	荒武夏子 26
4組	中村隆哲 28
4組	末吉るみ 31
4組	前川夏美 35
3組	木下明子 39
3組	田中真琴 43
3組	福村さおり 47
3組	吉崎宏美 50
3組	森みどり 53
3組	森重光代 56
3組	山口千里 59
3組	東綾子 62
3組	河口望 66
2組	塚本みやこ 70
2組	高田亜希 71
2組	吉留理沙 75
2組	田畑麻衣子 81
2組	清松亜紀 85
2組	高田育代 90
3組	荒田真理 93
2組	馬場共代 93
2組	丸田夏樹 98
3組	新村由香理 95
2組	坂本万里子 101

### 私たちの卒業論文 目次

日本語の表記	4組
日本語について	4組
夫婦喧嘩考	4組
ことばづかい	4組
日本語のアクセント	4組
日本人のことば	4組
言葉のかんづめ	4組
知ってるつもり！？	4組
秀吉の戦略	4組
英語と日本語の比較	4組
出会いノマエニ・・・	4組
手話の世界	3組
災害への対処と考え方	3組
最低限の幸福	3組
日本語について	3組
「鹿児島語」の世界	3組
コミュニケーションとことばの力	3組
『好き』から始まる外国語	3組
日本語の難しさ	3組
現代の若者用語について	3組
「現代語」を学んで	2組
外国語理解に必要なこと	2組
使えない英語	2組
日本語の表と裏	2組
奇形児発生について	2組
日本の話芸「落語」	2組
外国語について	3組
若者のことば	2組
言葉のつかいかた	2組
日本語と日本人の心	3組
人の生と死について	2組

希望して「現代語」を受け持った。一・二年の時には授業担当でなかつたので、力の伸長はつかめないが、この計画を意識して授業を進めてみた。この科目だから、選択だからこれだけの時間を取ることができた。通常の国語の授業で取り組むには、三年間を見通し、さらに小・中学校の指導の流れも踏まえた計画・工夫が必要だと思われる。

一年間「現代語」をやってみて、このようなやり方でよかつたかどうかはわからず、作文や、話し合いの指導もきめ細かにはできなかつたが、魅力ある教科であつた。生徒の多くも自分の国の言葉ということに大いに興味・関心を示しながら取り組んでくれた。生徒の前向きな姿勢と司書の協力が助けられた授業の展開であつた。

十年度も「現代語」を担当している。男子十名、女子十二名の二十二名である。ほぼ同じ計画を進めているが、前年とはやや様子が違い、興味を持って取り組む生徒とそうでない生徒との開きが大きい。「自分たちのことはほっといてくれ。」と言つて授業に参加しようとする生徒たちもいて苦慮していた。しかし、学習が進むにつれて、遅刻も欠課もなくなり、グループ活動にも参加し始めた。発言も多く、他班の発表も熱心に聞いている。普段見落としがちな、生徒の願いを見たような気がした。「現代語」の授業は、私自身の授業のあり方やこれからの総合的な学習のことを考える上で多くの示唆を与えてくれた。

今度の指導要領の改訂では、「現代語」は消えていく。命の短かつた「現代語」であるが、価値がなかつたわけではない。その

ねらいとしたところは、ますます重要視されて「国語表現Ⅰ・Ⅱ」の中に引き継がれていくのであろう。最後に、先程述べた、三年間を見通した「音声言語学習計画表」を掲載させていただいた。作成に当たつては、佐賀大学の白石寿文先生にご指導をいただいた。心から感謝申し上げ、十年度には、中学校の計画も立てられるなど関心が持たれつつあることを報告したい。

(鹿児島県立指宿高等学校)

